



健康社会への貢献を願って

歯学部卒業生の皆さん、大学院博士課程を修了され博士（歯学）の学位を取得された皆さん、ご卒業、ご修了おめでとうございます。また、これまで支えてこられたご家族、関係者の皆様にも、心よりお祝い申し上げます。

歯学部卒業生の皆さんは、歯学という高度な専門分野において、基礎から臨床にわたる修学を続け、膨大な知識と技術の体験・修得を幾度も繰り返し、積み上げ、ここに至りました。その長い年月の間には学業の厳しさや不安、そして緊張など、多くの困難があったことと思います。そしてその困難を乗り越えたからこそ迎えることができた卒業です。皆さんの努力に心から敬意を表します。さて、皆さんの学生生活はどのようなものでしたか。歯学を学ぶと決心して踏み入れた不慣れなキャンパスで、期待と不安が入り混じった日々が始まり、そして学年が上がるごとに歯学部学生として、そして将来医療に携わろうとする人としての心が成熟していったのではないのでしょうか。入学当時を思い起こしてみると、本学での学生時代を通じて自身の成長をしっかりと感じることでしょう。学生生活に充実感を感じている方、次の目標を掴んだ方、やり残しがある方、様々な思いがあろうかと思います。いかなる思いも次への推進力になります。本学部生時代に培った精神力や忍耐力を倍増させて未来へ進んでください。

博士（歯学）となられた皆さん、大学卒業後により深く歯学を探究しようと決意なさり、そしてその決意を学位論文という形で見事に表現されたことに敬意を表します。取得された博士（歯学）の学位は、新規性や独創性に富む研究を実施し、学術的価値の高い論文を作成したと認められたことを意味し、努力が報われた証です。指導教官と共に研究テーマを見つけ、検討、熟考を重ねて実験を遂行したにもかかわらず、予想とは異なる結果となり…このような経験をされた方が多いのではと思います。予想外の結果を得たときは困惑したかも知れませんが、今振り返ってみるとその困惑を解決しようとした時の思考力が、次の実験の推進力となったと感じませんか。これが研究の本来の姿であり、醍醐味でもあります。解決の糸口が見えた時に差し込んでくる細いながらも力強い光を忘れないでください。この光を見つけようとする姿勢は科学者に欠けてはなりません。

卒業生、修了生の皆さん、あなたたちはそれぞれの道を経て、医療人としての知識と技術を培われてきました。これからも研鑽を続けて、より一層の知識を得てほしいと思います。ですが、ここで気に留めていただきたいことがあります。ときに人は知識で昂りますが、この昂りは何の役にも立ちません。高慢、横柄といった、全く不要なものにしかありません。その知識を自身の中で温め柔軟にして、感謝と共に人の健康のために使ってください。本学の卒業や修了は決してゴールではなく、感謝と慈しみに溢れた社会貢献をスタートするときなのです。

ご卒業、ご修了、誠におめでとうございます。皆さんの未来が光に満ち溢れることを祈念し、祝辞とさせていただきます。



令和8年3月14日
歯学研究科長・歯学部長 山本 雄嗣

